
陽炎の日常 -kagerou days-

箱眼鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

陽炎の日常 - kagerou days -

【Nコード】

N2527BA

【作者名】

箱眼鏡

【あらすじ】

ゆらゆら、ゆらゆらと、ゆれる。

ゆらゆら、ゆらゆらと、ふたりはゆれる。

陽炎の日常で。

days i

8月15日 午後12時半(前書き)

これは、一体何時から、始まったんだろう。

days・i

8月15日 午後12時半

8月15日、午後12時半くらい。

僕は、眩しい日差しの中

する事もやる事も何も無いから、『君』と駄弁っていた。

すると、

『でもまあ、夏は嫌いかなあ……』

猫を優しく撫でながら

『君』はふてぶてしく、笑いながら呟いた。

そんな話をしていると、

『君』が撫でていた猫が逃げ出した。

逃げ出した猫の後を

君は慌てて追いかけていったけど

猫が道路に出てしまった。

僕は『君』を止めようとした。

でも、遅かった。

バツ、と通ったトラックが

『君』を轢きずって、鳴き叫ぶ。

周りの大人たちは悲鳴を上げたり、

慌てている人達ばかりだった。

血飛沫、赤い色が

僕の眼前に広がっている。

『君』の、少し前まで動いていた、身体。

『君』の、さつきまで、綺麗に笑っていた、顔。

『君』の、風になびいていた、さらさらとした、髪。

『君』の、少し前まで、開かれていた、眼。

それら全てが、

赤く、赤く、赤く。

すべてが、赤く、真っ赤に、なつて。

眼は静かに閉じられていて、頭からは、赤い、赤い、血が

どくどくと、どくどくと。

流れ出ている、だらだらと、どろどろと。

血飛沫の色、『君』の香りと混ざり合つて、むせ返つた。

赤。綺麗な赤が、時間が経つにつれ、赤黒くなっていく。

嘘かと思つた。

夢だと思つた。

嘘だと思いたかつた。

夢だと思いたかつた。

その時、嘘みたいな陽炎が

『嘘じゃないぞ。』

と、嫌らしく厭らしくいやらしく

狂ったように、嗤っていた。

夏の水色、かき回すような

蝉の音に、全て、

眩んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2527ba/>

陽炎の日常 -kagerou days-

2012年1月6日14時47分発行